

写真と文=越智隆治

取材協力=ニューカレドニア観光局、ニューカレドニア北部州観光局、エアカラン、
REVE BLEU CALEDONIE、BABOU COTE OCEAN、Tieti Diving
デザイン=PanariDesign

■世界自然遺産登録エリア



Nouvelle Calédonie

ニューカレドニア北部州 ダイビング放浪記

ニューカレドニアの空の玄関口、トントウタ国際空港に降り立ち、そのままレンタカーでグランドテール島の北に車を走らせる。目指すは、同島を取り囲むように連なる美しいサンゴ礁のバリアリーフ。2008年に世界自然遺産に指定された同国のバリアリーフ、そしてその内側に広がるラグーンを潜りまくる旅が始まる。北東部のヤンゲン、ポアンディミエは、5年前、初めてこの地を訪れた時に潜り、サンゴの美しさに魅了された。そして、今回の旅では、新たに北西部のクマック、ブームの2箇所をくわえた。今回の旅を通して、僕は増々ニューカレドニアの海の魅力にハマってしまったようだ。その一部をここに紹介しよう。

ヤンゲンの海中に、
何かが潜む！



#01 Koumac & Poum

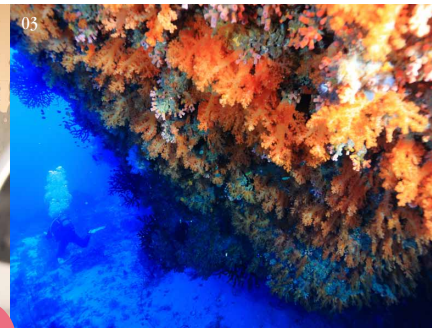
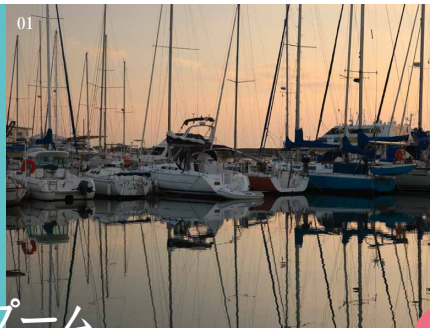
#02 Hienghene



#03 Poindimié



今回のニューカレドニアロケで、一番最初に訪れたのがグランドテール島北西部にあるクマック、そしてプームの海。5年前にもニューカレドニアのグランドテール島を中心にダイビング取材を行なったが、今回のロケでも、ほとんど5年前と同じエリアを取材した。



#01 クマック&プーム 大物狙いの海

その中で、唯一、このクマック、プームだけが、今回初めて潜る海。それだけに、どんな物が見られるのかという期待は大きかった。この両方の海を案内してくれたダイビングサービスは、REVE BLEU。

オーナーガイドのダヴィッドさんは、この海にダイビングショップをオープンして5年。まだまだリサーチする事は多くあると思うが、まず彼が進めたのが大物系のリサーチだったようだ。今回、クマックとプームのダイビングの話聞いたところ、クマックでのダイビングポイントは12箇所、プームでのダイビングポイントは8箇所あるという。いずれも、グレーリーフシャークの群れが見れるポイント、マダラトビエイの群れが見れるポイント、シルバーチップシャークやタイガーシャークとの遭遇の可能性のあるポイントなど、大物系の生物の名前が次々に出て来た。シーズン中には、ザトウクジラとの水中遭遇もあったと聞いた。大物系だけに、当たり外れも大きいかもしれないが、そんな大物との遭遇を期待して、ディンギーボートに乗船して、ダイビングへと向かった。

01,クマックの小さなヨットハーバーに日が沈む

02,町中には小さなスーパーがあるだけ

03,ハンクオフの壁には、美しいソフトコーラルが群生

04,建物に描かれた、壁画

空港からクマックへ行く途中に立ち寄ったハンバーガー屋さん



区画され、整然とした町並みは、ニューカレドニアの田舎町としては珍しい

プームエリアにある無人島に上陸。美しい砂州が広がっていた



グランドテール島最北端の海

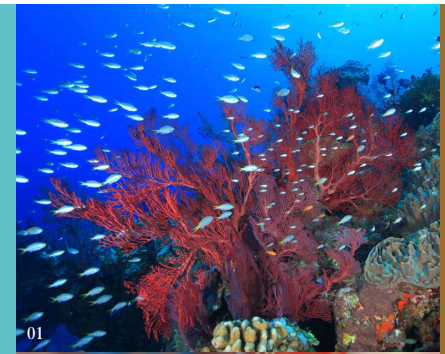


ずっとついてきた大きなコバンサメ(上)
目の前までやってきた、シルバーチップシャーク(左)

まずは、初日にプームの海でダイビングさせてもらった。ニューカレドニアでは、メインの島であるグランドテール島や、周辺の離島の周囲は全長1,600kmにも及ぶ広大なバリアリーフに囲まれたラグーン(内海、あるいは礁湖)になっている。ラグーンの総面積は約23,400km²、そのおよそ64%に当たる15,000km²が6つのエリアに分割される感じで、2008年にUNESCOの世界自然遺産に指定された。プームは、今回潜ったヤンゲン、ポアンディエと同じエリアとして、世界遺産の中に含まれている。

1本目の狙いは、ロブスターというポイントでのグレーリーフシャークの群れや、シルバーチップシャーク、そして運が良ければタイガーシャーク。なだらかに落ち込むサンゴのリーフを沖へと泳いでいくと、リーフエッジで小さなケープを抜ける。そこが水深30mくらいのドロップオフのちょっとした窪みになっていて、ここでサメの出現を待つ。

ダヴィッドさんが、少し海水を入れたペットボトルをバコバコと鳴らすと、サメたちが集まってきた。全てグレーリーフシャークだったが、それぞれの個体のサイズは大きめな印象だった。



01

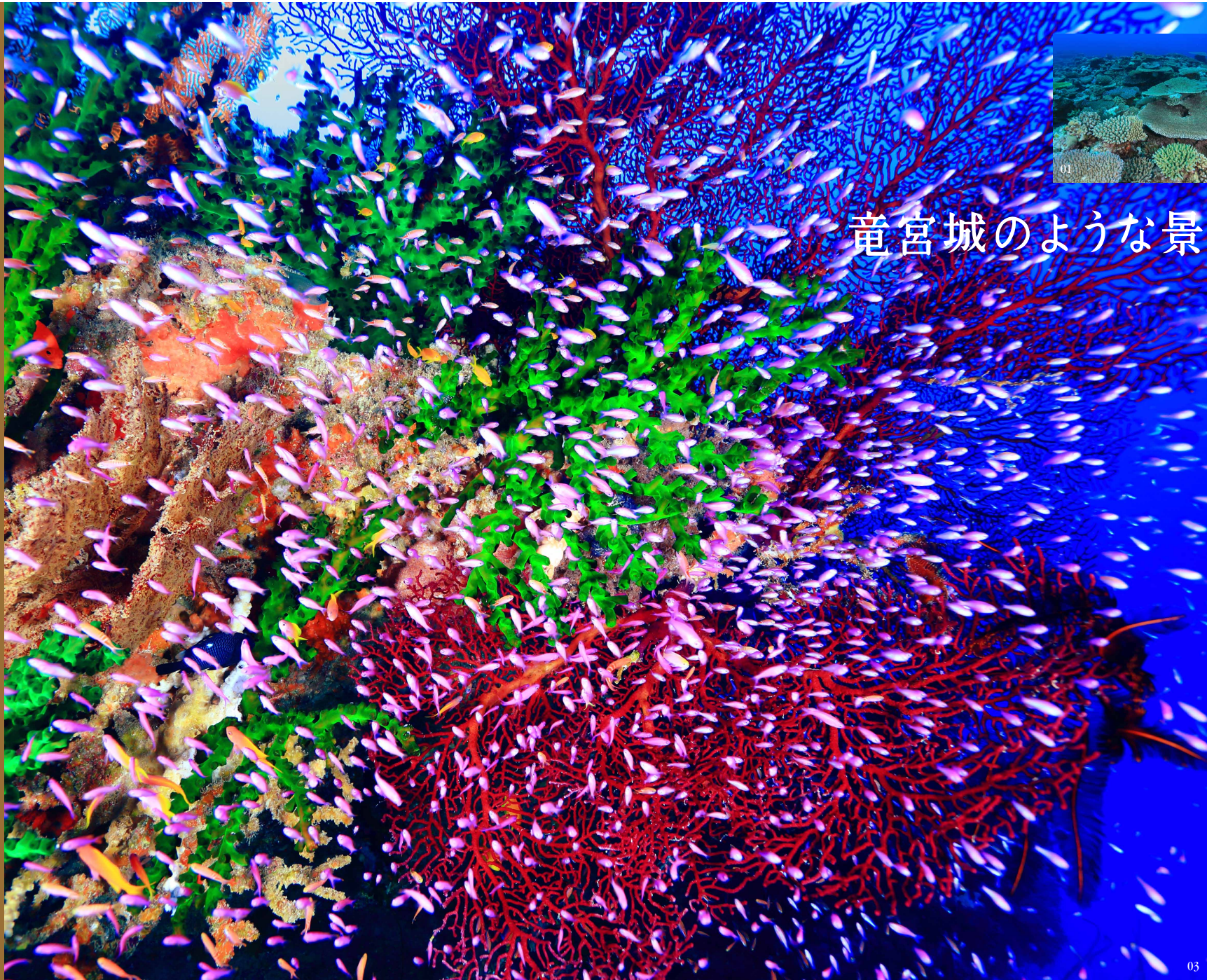


02



03

- 01, イソバナには、スズメダイの幼魚が群れる
- 02, クダゴンベ
- 03, 無人島の木陰でランチタイム



竜宮城のような景観に感動する

この海では、大物系のネタが多いようだが、自分はハードコーラルの群生の中に点在するイソバナなどに、スズメダイやハナダイなどの幼魚たちが群れるシーンが気になった。この時期、幼魚たちが増えるのかもしれないが、息をひそめて近寄って撮影しようとする、ストロボが光る度に、幼魚たちが、まるで花火のように、イソバナからふわっと広がるシーンは、色彩も美しく感動的だった。

特に2日目、クマックエリアのイーグル・パラダイスでは、シルバーチップシャーク狙いで潜っただけど、水深40m弱にあったイソバナに、紫色のハナダイダマシが大量に群れていて、その景観に興奮してしまい、しばしサメの出現を無視して、そのシーンを撮影しまくったくらいだ。

このクマック、プームだけでなく、ニューカレドニアで潜った海の多くが、美しいイソバナなどの群落が目引く場所が多いが、今回潜った中で、「もう一度撮影のために潜りたいポイントは？」と訪ねられたら、クマックでは、間違いなく「イーグル・パラダイス！」と答えるだろう。

- 01、リーフ上にはサンゴが群生
- 02、アカウミガメが通過していった
- 03、ハナダイダマシが群れていた、美しい根

03

ヤンゲンはグランド
テール島北東部に
位置する。なだらかな山並
みが続くニューカレドニア
にあって、唯一針山のような
奇岩群が立ち並ぶ。この
奇岩群は、ニューカレド
ニアの紙幣、500パシフィックフランにも描かれて
いて、週末には多くの地元観光客でにぎわう
景勝地でもある。



01

01, 渡し船に乗って、
北部からヤンゲンへ
と南下する

なだらかな山並みから、突如として出現する
この奇岩群は、まるで原始の世界にタイムス
リップしてしまったかのような感覚に捕われる。
鬱蒼とした木々の間から覗く針山を見上げてい
ると、どこからともなく、巨大なモンスターが出現
してもおかしく無いなど、一人、様々な空想を働
かせてしまう。

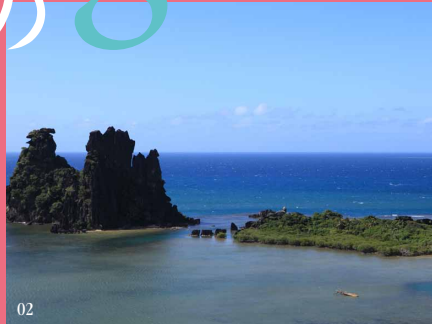
海の中はと言うと、こちらもサンゴのバリア
リーフによって、形成された複雑な地形が特
徴的。発達したリーフの合間には、長い亀裂
や、簡単に通り抜けられるケーブが点在してい
る。そのケーブや亀裂には、鮮やかなウミウチ
ワなどが群生して、さながら迷路のような森をさ
まよっているかのようだ。



突如ゴツゴツした石
灰岩の岩山が出現し、
この場所だけがタイム
スリップして原始の世
界へさまよいこんだよ
うな感覚になる

#02 ヤンゲン Hienghene モンスターの 潜む海

02, 奇岩、チキンロッ
クが姿を、見せる
03, 映画オーシャンズ
にも登場したという
亀裂
04, シマタレクチベラ
05, サンゴの隠れ根
の上には、魚たちが
群れる



02



03



04



05



01



02



03

5年前、水中モデルと一緒にこの海を訪れたとき、BABOU COTE OCEANのオーナーガイド、チェリー・バブレンさんが、そのモデルの女性を楽しませようとして、BCDのポケットから取り出したのが、緑色をしたモンスターのマスクだった。

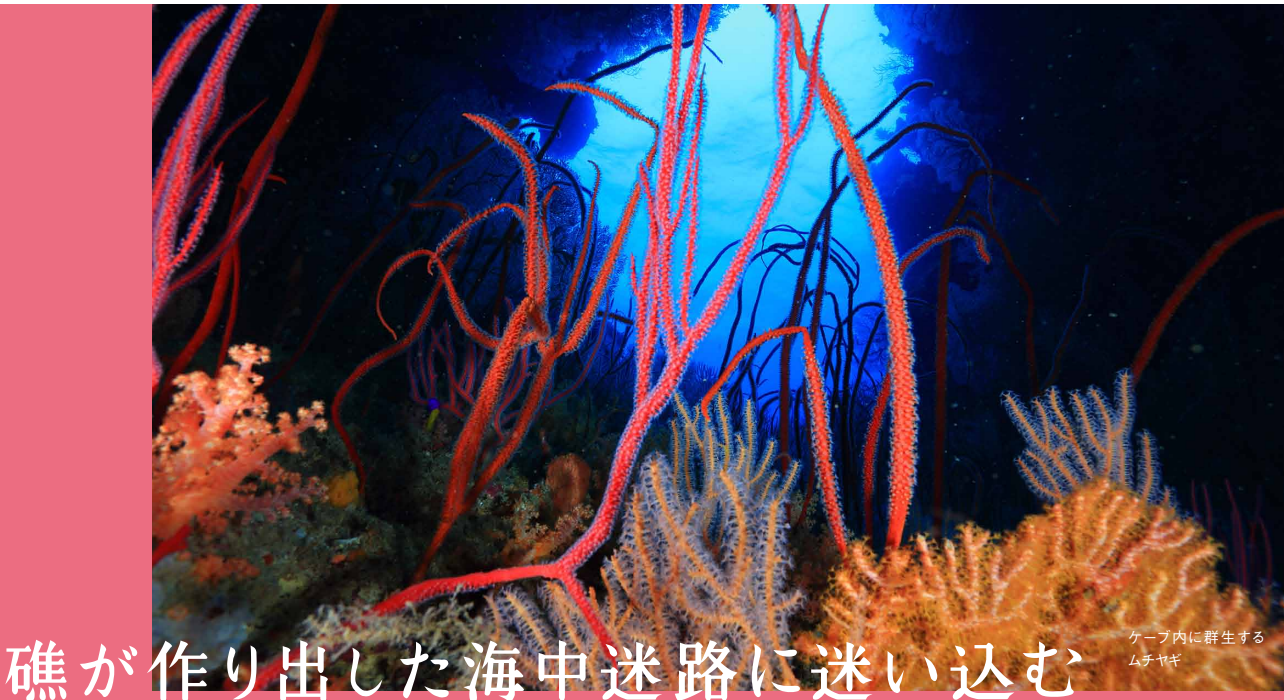
薄暗いケーブの中でモンスターマスクを着けて、おどけてみせたのだけど、その時の記憶は今でも強烈に残っていた。だから、今回も同じポイントに潜るときに、ブリーフィングで「モンスターが出るかもしれないよ」と通訳を通して言われたときには、「またモンスターマスク被るの？」と冗談半分で質問を返してみた。すると、案の定、チェリーさんはBCDのポケットから嬉しそうにモンスターマスクをつまみ出したのだ。

「あ、やっぱりね、しかも5年前と同じマスクだよ……」。少し苦笑い

しながらも、彼の海中パフォーマンスを期待していた。

しかし、初日のダイビングを終えてダイブショップに戻り、HPの写真を見せてもらって、ポイントの説明を聞いていたときに、海中の切り通しの壁に、巨大な狼男の顔が浮かび上がっている写真に驚いた。

ポアント・オ・キャシャロというこのポイントは、映画「オーシャンズ」のワンシーンに使われた場所だ。その撮影のときに、同映画に出ている海洋学者のフランソワ・サラノが、このモンスターを発見したのだという。彼がこのポイントに潜った後に「ここには、モンスターが住んでいるね、しかも2匹も!」と言ってきて、チェリーさんも初めてモンスターの存在に気がついたのだそうだ。



ケーブ内に群生するムチヤギ

サンゴ礁が作り出した海中迷路に迷い込む



04

こちらもケーブ内で成長を続けるイソバナ

- 01, 巨大なソフトコーラル
- 02, モンスターのマスクでおどけてみせるチェリーさん
- 03, グルグクの群れ
- 04, イソバナなどには、ハナダイが群れる



モンスターが見れたか、OKサインで確認

海中で、モンスターたちに遭遇

チエリーさんのモンスターマスクと勘違いしていた僕は、彼がこの狼男を見せようと、ライトを照らしていたのに、一体何の生物を見せようとしているのかと、照らした岩の一部を食い入るように見てしまい、狼男の存在にはまったく気づかなかったわけだ。

翌日、再度このポイントに潜りたいとリクエストを出し、撮影したのが1ページ目の写真。こうやって、口に見える部分にライトを当てると、まるで今にも火を吹き出しそうな迫力を感じる、目も耳も鼻も、そして、大きく切り裂かれた口も、完璧なまでにモンスターだ。

そして、2匹のモンスターが写っている、もう一枚の写真がこれ、確かに、この写真では、狼男の下僕のようなドワーフ系のモンスターが、写真の手前の方に潜んでいるのがわかる。面白い感覚で潜る人もいるものだなと感心しながら、その写真を見ていると、なんだか他の岩もモンスターに見えて来るから不思議だ。

ほら！ドワーフと狼男の間にも、頭が異様にでかい恐ろしい顔をしたモンスターが潜んでいた！

奥に巨大な狼のモンスター、手前に、弱そくてずる賢そうな、ゴブリンのモンスター。……そしてその間の隙にも、もう一匹！





ティエティテラビーチ
ゾートのプールサイド

2008年、ニューカレドニアのバリアリーフがUNESCOの世界自然遺産に指定された。その要因になったのが、ポアンディミエのサンゴの美しさのおかげではないかと思ってしまう程、この海のサンゴたちの成長ぶりには目を見張るものがある。

ダブルバリアリーフと呼ばれる、2重に並んだリーフによって守られた浅瀬のサンゴ群落は、様々な種類のサンゴが折り重なるように群生していて、足の踏み場も無いくらいだ。今まで、世界中の海で美しいサンゴの群落を見てきたけれど、このポアンディミエの海は、自分の中では、間違いなくベスト1。

世界自然遺産、 サンゴの森に迷い込む、 #03 Poindimie ポアンディミエ

これほどのイソバナの
群生は見た事が無い

ヴァルディゼールでは、そんなサンゴの大群生を堪能できる。ボートからエントリーした直後、僕はハードコーラルの森に迷い込んでしまった。延々と成長を続ける枝サンゴの群落は、イバラの森のようでもある。どこからか、ベストを着込んだブレア・ラビット (Br'er Rabbit、うさぎどん) が、人参をかじりながらびよびよんと飛び出してきそうだな。そんな事を考えながら撮影を続けていると、ブレア・ラビットではなくて、一匹の巨大なコブシメに出会った。そっと近づいても、あまり逃げようもしない。サンゴの森が守ってくれているからか、安心しきった様子でしばらくの間、撮影のモデル役になってくれた。

しかし、このイバラの森、いやいや、ハードコーラルの森の住人たちは、なんて穏やか

サンゴの森の住人たち

で幸せな環境で暮らしているんだろう。自分も、この穏やかなサンゴの森に囲まれて、ストレスを感じることなく海中浮遊を続けた。癒し効果抜群のポイントだった。

ポケットと名付けられたポイントは、サンゴ礁でできた隠れ根が点在し、いくつものスィムスルーが出来ている。切り通しのような壁には、イソバナが群生していて、これもまたカラフルな海の森のようだ。赤や黄色、ピンクにオレンジ、そんな暖色系の色彩が、折り重なるように密集していて、迫力がある。なかなかここまで折り重なるイソバナの群落を見ることは珍しい。

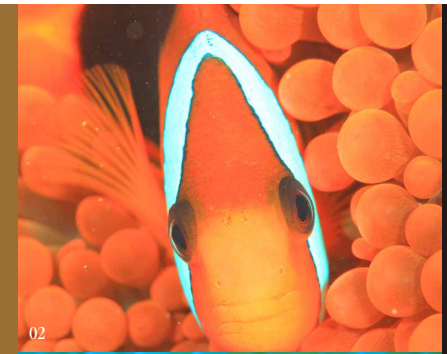


01

- 01, ローランドダムゼルの個体数も多い
- 02, ハマクマノミ
- 03, ハナビラクマノミ
- 04, サンゴの成長の度合いは目を見張るものがある
- 05, ウミウシなども良く見かける



サンゴの森の住人
コブシメ



02



03



まるでイバラの森のように成長を続けるサンゴ



04



05

サンゴの根の下には、
ケーブなどの地形が
点在する



僕が潜った時は、潮が当たってなくて、
ポリブが開いていなかったが、ポリブが
開いていると、もっと綺麗だとガイドのマルタン
さんが教えてくれた。そう言われるとちょっと残念
だったけど、それでも、このイソバナの大群
落を堪能できただけでも、十分だった。

自分がハードコーラルや、ソフトコーラルの
群落を見て、これほど感動できる海も、最近で
は、なかなか珍しい。構図を考えながら、撮影
に夢中になっている間に、あっと言う間にワン
ダイブを終了したが、まだまだ時間をかけてじ
っくり撮影してみたかった。

*

で きることなら、またいつか、このポアンディ
ミエを訪れて、じっくり時間をかけてサン
ゴの撮影を行いたい。そう思える海だった。

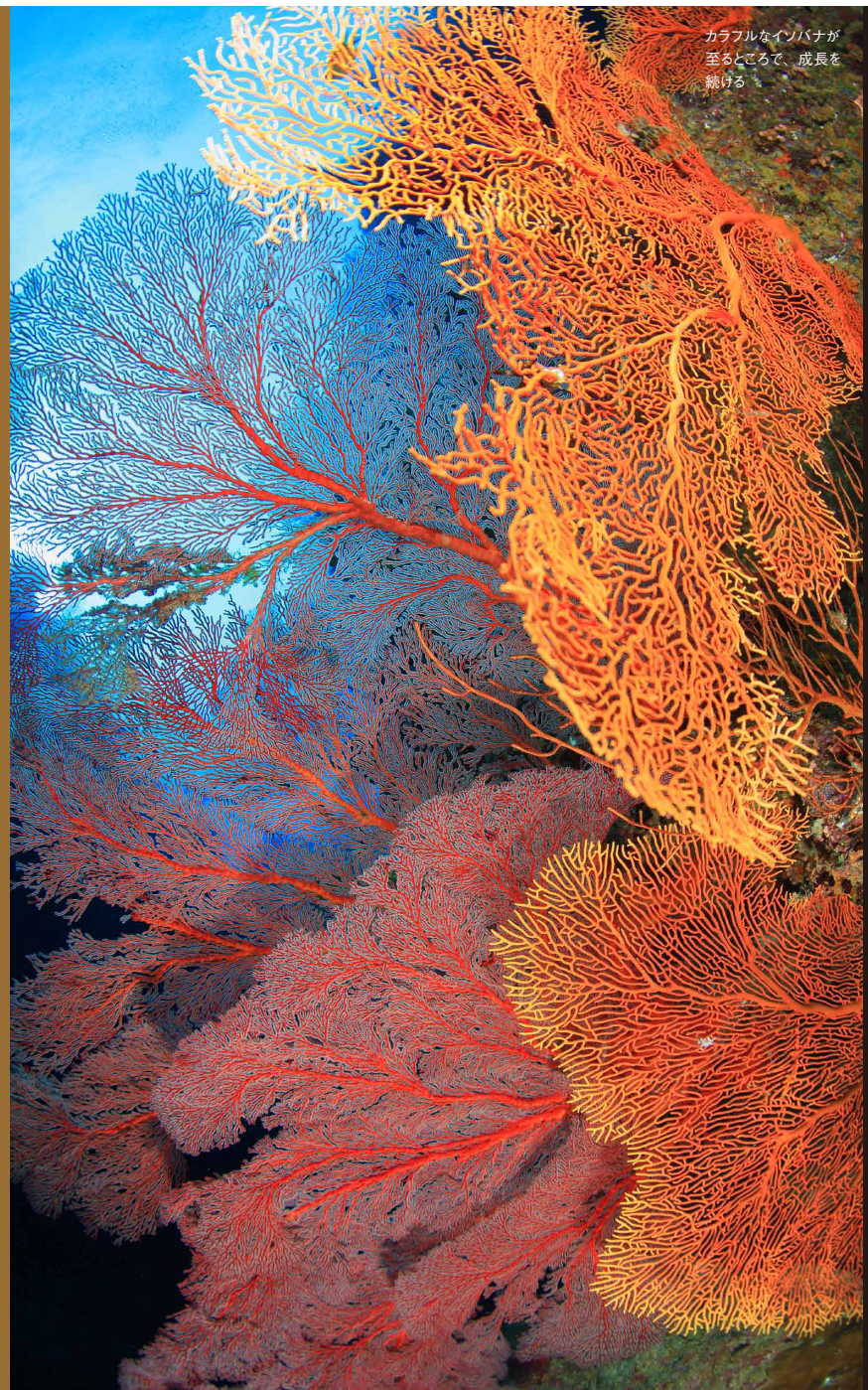
また訪れたい、美しいサンゴの海

密集するイソバナが、
サンゴの森を、より深
いものになっている



01, 婚姻色のナミス
ズメダイ
02, ハーフアンドハ
ーフクロミス

カラフルなイソバナが
至るところで、成長を
続ける



Diving Service and Stay Information

#01 Koumac & Poum



レーブ・ブルー・カレドニ REVE BLEU CALEDONIE

Marina de Pandop, BP 647, 98850 Koumac
Tel. & Fax. (+687)42-45-64
→<http://www.revebleucaledonie.com>
✉revebleucaledonie@internetnc.fr

クマックとプーム、両方に店舗を構える、ダイビングサービス。大物系のガイドを好む。

#02 Hienghene



バブー・コテ・オセアン BABOU COTE OCEAN

BP 77, 98815 Hienghène Tel. & Fax. (+687)42-83-59
→<http://www.babou-plongee.com>
→<http://www.babou-plongee.com/Japon/indexjp> (日本語)

ビーチ沿いのキャンブグラウンド内にある、ヤンゲン唯一のダイビングサービス。ダイビングの他に、スノーケルツアー、キャンプ、ボート利用の河口にあるマングローブエリアへのエコツアーなども開催。

#03 Poindimié



ティエティダイビング Tiéti Diving

BP248, 98822 Poindimié Tel. & Fax. (+687)42-42-05
→<http://www.tieti-diving.com>
✉tieti.diving@offratel.nc

Tiéti Tera に併設されたダイビングサービス。周囲には、70カ所ものダイビングポイントが点在しているが、全てオーナーのマルタンさんが開拓したもの。ディンギー 2隻を所有。

Extra Rifou

抜群の透明度と美しいビーチ。リフーへの誘い。



ワイオテ諸島の3つの島では、リフーが最も大きく人口も多い。シャトーブリアンやロンガニという、きめの細かい白砂の美しいビーチがあることで有名だ。

リフーへはヌメアのマゼンタ空港から国内線飛行機でのアクセスとなる。着陸姿勢の飛行機の窓から島を見下ろすと、海面から5～10m、場所によっては20m以上も切り立った隆起サンゴの断崖といくつかのビーチに囲まれ、うっすらと引かれた線のように見える道路以外は全て木々に覆われる。

起伏に富んだ地形は水中にも続いている。水深6mのリーフの根があるかと思うと、そこから一気に50mまで落ち込む。そんなスポットがいくつもあり、トンネルやアーチ、クレバスに差し込む日の光が神々しさをも感じさせてくれる。

そして驚くべきは透明度のよさだ。悪いときで30m、よいときは60mを越すほど。島の周りにバリアリーフがなく、外洋と直接つながっているため常に水が澄んでいる。さらに、サンゴの状態はニューカレドニアで一番よい。中でもカラフルなソフトコーラルの見事さは思わず息を呑むほどだ。

そんなリーフの海を案内するのは Annabella (アナベラ) が率いる Lagoon Safari Lifou (→<http://lagoon.ile.nc> Tel. (+687)45 40 60 or (+687) 78 94 72)。リフーの魅力を残すことなく紹介してくれる。

ニューカレドニアについてもっと知りたくなったら

ニューカレドニア観光局

〒107-0052 東京都港区赤坂2-10-9 ラウンドクロス赤坂9F
Tel.03-3583-3280 Fax.03-3505-2873
→<http://www.newcaledonia.jp>



ル・パシフロール LE-PASSIFLORE

BP 1502, 98850 Koumac
Tel. (+687)42-71-71 Fax. (+687)42-71-08
✉hotel-lepassiflore@canl.nc

クマックの町の中心部にある簡素なホテル。スタッフの対応がとても好印象。レストランの食事も美味しい。



クルヌエ・ビラーージュ KOULNOU VILLAGE

BP63, 98815 Hienghène
Tel. (+687)42-81-66 Fax. (+687)42-81-75
→<http://www.grands-hotels.nc/fr/koulnoue.html>
→<http://www.grands-hotels.nc/ja/koulnoue.html> (日本語)

静かなビーチに建つ、黄色いバンガローは50室。テニス、ミニゴルフ、ゴルフ打ちっぱなし、バスケットボール、カヤック、卓球、プールなど、無料アクティビティが多い。ニューカレドニアの特産品、天使のエビが定番のビュッフェが人気。ローカルのパカンス客が多い。



ティエティ・テラ・ビーチ・リゾート TIETI TERA BEACH RESORT

BP154, 98822, Poindimié
Tel. (+687)42-64-00 Fax. (+687)42-64-01
→<http://www.tera-hotels-resorts.com/hotel.tieti>

オープンして間もない新しいホテルなので、部屋は清潔。カテゴリーは、オーシャンビューのバンガロー、ガーデンビューのバンガロー、ビルタイプのデラックスルームの3つ。

ニューカレドニア北部州ダイビング放浪記